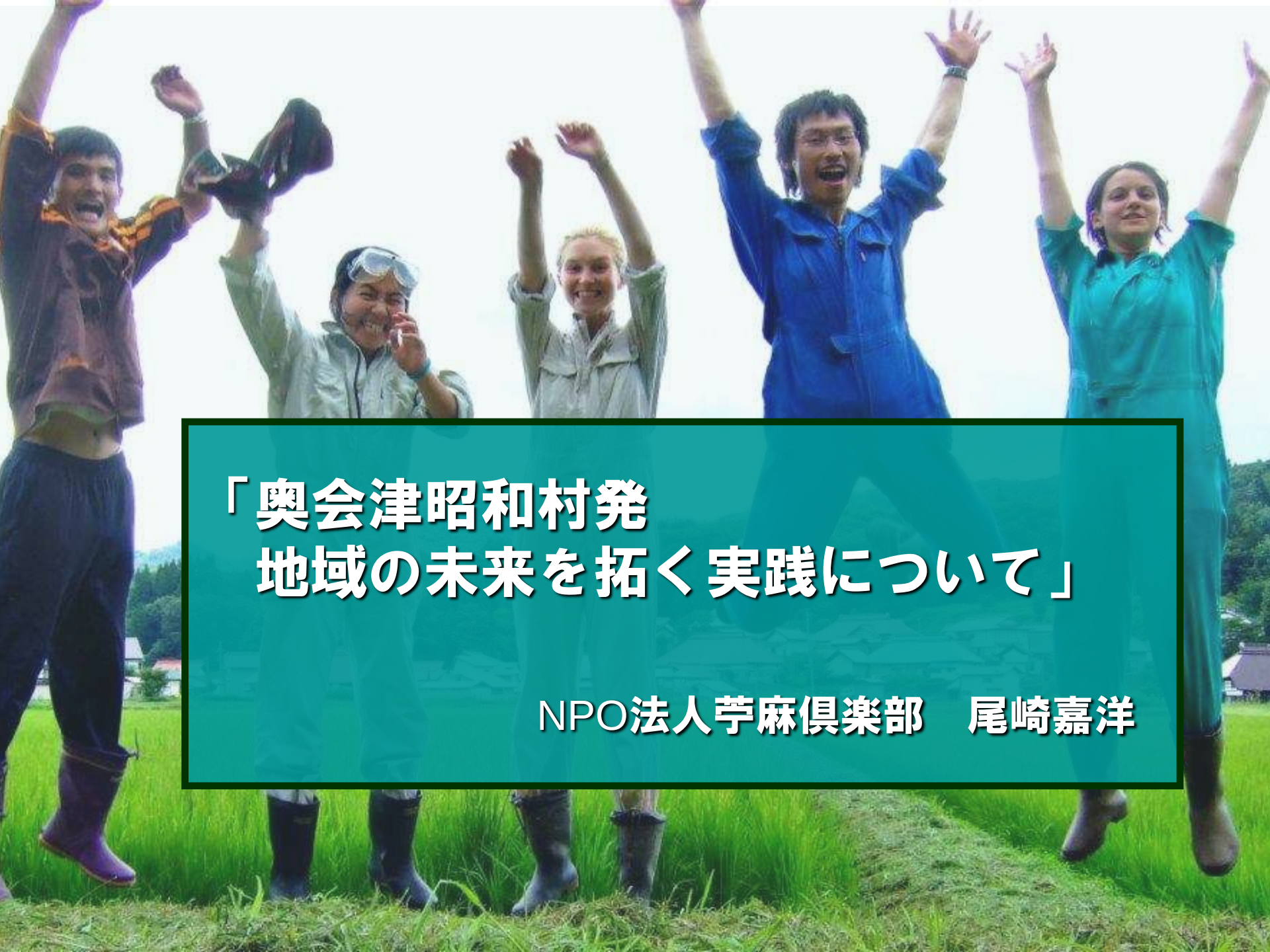


A photograph of five people (three men and two women) jumping joyfully in a lush green field. They are all wearing rubber boots and casual clothing. The background shows a clear sky and some distant trees. A semi-transparent teal box with a black border is overlaid on the lower half of the image, containing white text.

# 「奥会津昭和村発 地域の未来を拓く実践について」

NPO法人苧麻倶楽部 尾崎嘉洋



# 奥会津・昭和村について

人口 約1,403人 世帯数 624世帯

高齢化率 54.5% (75才以上の割合, 38.3%) 県内第2位  
(福島県現住人口調査結果2013年8月1日時点)



# 芋麻倶楽部のミッション

## 村の現状

- 超少子高齢化による過疎化
- 経済価値に重きをおいた社会における自信の喪失
- 地域を継承する担い手の不足

ピンチはチャンスになる！

## 社会の現状

- 経済社会の限界や不安
- 土に根ざした生き方・働き方への関心が高まる
- 新しい時代の転換期

縄文時代から人が暮らし、何世代にもわたって継承されてきた大切な知恵、生き方、地域コミュニティを次の世代につなぐ



昭和村に暮らす人々が大切にしてきた自然と寄り添う生き方の作法をベースにした地に足のついた持続可能なライフスタイル、新しい文化の創造を目指す

# 芋麻倶楽部の行う事業

ひと

都市との交流に  
関わる事業

- 3-1. 田舎暮らし体験施設の運営
- 3-2. 田舎暮らし体験ツアー
- 3-3. ワークキャンプ  
(復興地域づくりリーダー育成プロジェクト)
- 3-4. 復興に向けた観光交流事業
- 3-5. 会津田舎暮らし応援事業  
田舎暮らし受入団体  
リーダー養成塾「會ターンズ」

げんき

地域住民のサービス  
に関わる事業

- 2-1. よつばの会支援事業
- 2-2. 村内イベント出展
- 2-3 奥会津地域人材育成  
「奥会津大学」

## 活動の3本柱

地域産業の振興に  
関わる事業

しごと

- 1-1. 地域の新商品の開発:
- 1-2. 若者による農村複合型ビジネス  
創発支援事業 (ムラキャンパス事業)



# 震災後、さらに強くなった想い

復興の先にある新しい時代づくりのために・・・

自然と共生してきた

**本物の生き方**の発信

**地に足のついた**

持続可能な社会づくり

**多様な想い**を  
つなげる場づくり

福島を今を

**世界へ発信**



持続可能な地域づくりを担う

**人づくり**

# 昭和村ワークキャンプ

身の回りのあれこれ  
手伝ってほしい  
農作業 手伝ってほしいなあ、  
手が足りない …などなど

国内外の若者が昭和村に集い、  
共同生活をしながら主に高齢者世帯で  
農作業や除雪作業に携わる地域応援活動

芋麻倶楽部  
(つなぐ役)

国内外の大学生など若者たちが  
村内に1週間～2ヶ月程滞在

- ・食事は交代で自炊当番制
- ・宿泊は空き家、施設等を利用

## ワークキャンプ内容

- ・村内の高齢者世帯での農作業や雪かたし作業
- ・共有地等での草刈り作業
- ・地域や老人ホームでのお祭り運営のお手伝い
- ・お茶呑み、交流会など語り合い など





昭和村ワークキャンプ活動写真

# 昭和村ワークキャンプのこれまで

(2008年～2012年)

+ 参加者数: **140人以上**

+ 交流人口: 延べ **2400人以上** (参加数×滞在日数)

●これまでの参加者の出身地 **25 カ国(地域)、16 都県**

＜海外参加者はどこから？＞

韓国、台湾、中国（香港・マカオ）、タイ、モンゴル、スリランカ、アメリカ

フランス、ドイツ、イギリス、イタリア、スペイン、スイス、ベルギー、スウェーデン、スロバキア、ポーランド、オランダ、ギリシャ、フィンランド、クロアチア、ロシア、ウクライナ

＜国内参加者＞

福島、山形、東京、神奈川、茨城、埼玉、栃木、群馬、静岡、奈良、兵庫、滋賀、愛知、山口、熊本、福岡など



# なぜ、昭和村ワークキャンプを目指すのか？

- 日本の農村のライフスタイルを体験したい
- 田舎の文化・コミュニティを学びたい
- 地域活性の役に立ちたい
- 日本語・日本文化を学びたい
- 農業をやってみたい
- 観光では行けないようなところに行きたい
- いろんな国からの参加者と友達になりたい
- 農村に暮らす人々と触れ合いたい
- 田舎料理を体験したい
- 山に囲まれた自然を体験したい
- 福島を応援したい
- 震災後の福島の現状を学びたい
- 福島の復興に貢献したい

# 福島の今を世界へ発信

顔の見える一人一人が大切な発信役。遠回りなようで、実は近道なはず。

台湾からのボランティアが震災後、自国で昭和村・福島体験記を出版

那年夏天  
福島記憶 卡普西 著

地震搖撼的山區小村落，  
因為一位台灣青年志工而變得熱鬧不同。  
台式滷肉飯、蔥油餅成功征服村民們的胃，  
「小心輸出發」在當地竟是真的上演情節！  
一幕幕超爆笑、超暖淚的真人故事。  
那一年夏天，  
在日本福島昭和村留下永恆的記憶畫面。



**日本 311 地震週年  
感人上市！**

天搖地動的災難過後，摧毀的是家園與景色，  
留下的，卻是無國界的愛。

 隨書附贈 **獨家刻印福島紀念物明信片**  
寫下你的祝福，為日本福島應援集氣！

※ 活動內容請見贈品名單



懷念的區長先生一家



報獲如已出的華城先生夫婦



喜歡和我把酒言歡的連連兄弟檔



# 福島の世界へ発信

約13万人の若者は集まる「フジロックフェスティバル」や「土と平和の祭典」でのPR



NGO ヴィレッジトーク【つながりがつくる未来～東北復興の現場から～】

FUJIROCK FESTIVAL 2013 ライブレポートより



# 持続可能な地域づくりを担う人づくり



奥会津  
昭和村発

<http://www.chomacub.jp/leader/>

地域づくりのフィールドから学ぶ、

復興・地域の明日をデザインする  
リーダー研修

奥会津  
昭和村

地域づくりのフィールドから学ぶ、  
復興・地域の明日をデザインする

リーダー研修

研修内容 (1泊2日) 復興地域づくりリーダー育成研修コース <http://www.chomacub.jp/leader/>

・海外からの地域づくりボランティアによる世界各地の地域づくりの事例発表  
・スキル向上ワークショップ

【場 所】 福島県昭和村 小野川分校  
【定 員】 各 15 名・定員になり次第、締め切らせて頂きます  
【参加費】 各 3,000 円 (宿泊、3 食込)

第1回 7月14日 (土) ~ 15日 (日) テーマ: リーダーシップ、ボランティアの力を引き出す、活動コーディネーター

講師: 矢野 正広 氏  
認定 NPO 法人とちぎボランティアネットワーク 事務局長  
震災がたつなぐ全国ネットワーク 事務局長  
95 年阪神淡路大震災での救済活動を契機に、ボランティア・コーディネートの専門機関として栃木県域の中間支援団体「NPO 法人とちぎボランティアネットワーク」を設立、事務局を、災害関係では阪神淡路大震災や新潟中越地震をはじめ全国各地で救済活動、復興支援活動を行っている。2000 年より震災がたつなぐ全国ネットワーク事務局



講師: 塚本 竜也 氏  
NPO 法人チチ環境未来基地 理事長  
NPO 法人ユースサポーターズネットワーク 理事  
1999 年、米国で長期の環境保全プログラム (Conservation Corps (コンセベーション・コア)) に参加。現在は栃木県を拠点に、同プログラムを実施しながら、若者自立支援と環境保全をテーマに活動。震災後は、平成 23 年 4 月より、福島県いわき市で復興・復興支援活動を開始。現地事務局を置き、環境を切り口とした被災地支援を継続中。



第2回 9月1日 (土) ~ 2日 (日) テーマ: リスクアセスメント、チームビルディング、課題解決型ミーティング

講師: 志賀 杜史 氏  
NPO 法人日本環境保全ボランティアネットワーク 理事  
NPO 法人グリーンシティ開発 理事  
福岡市近郊を拠点に、複数のまちづくりや地域活性化の市民活動に参加する。まちづくりワークショップの実践を通じて身に付けたファシリテーション・グラフィックの手法を、避難民の会、各種イベント、研修会等に活用している。有明会社里山山研研究所 代表取締役。また、里山保全に取り組む任意団体「こうのす里山くらぶ」の代表。



講師: 小森 耕太 氏  
NPO 法人まきづくり工房 理事  
山村舎 事務局長  
2000 年に八丈市風木町へ移住。以後、地域の農林業と連携しながら都会からのボランティアや農林業体験を受け入れ、様々な企業と連携中。現在は長期ボランティア合宿、チェーンソー研修、安全講習等に力を入れている。



第3回 10月6日 (土) ~ 7日 (日) テーマ: 地域を巻き込む、活動の見える化、持続可能な活動に向けて

講師: 石井 正宏 氏  
株式会社シェアするココ 代表  
一般社団法人インクルージョンネットよこはま 理事  
「若者と保護者、教える人と教えられる人が笑顔で暮らせる社会創り」をミッションに、自らのノウハウ、スキル、アイデアをオープンソース化することで社会的課題の解決を目指す。高校と地域中小企業との連携をはかり、アルバイトとインターンシップをかけた付加価値付与「イターン」事業を推進。また、「バーチャル・サポート・サービス」事業を推進。インクルージョンネットよこはまにて理事、相談員を務める。



講師: 池田 誠 氏  
財団法人北海道国際交流センター 事務局長  
認定 NPO 法人「持続可能な開発のための教育 (10 年)」推進会議 理事  
大学卒業後、JTB にて 11 年間勤務。95 年に退職。1 年間、ニュージーランドでグリーンツーリズムや、バーマカルチャーなどを学びながらババロア生活。帰国後、共働きの新居でハンディキャップをもった人々と共同生活をしながら有機農業、サチュラチーズづくりなどを担当。2001 年 5 月より現職。七歳男大を任す。



第4回 2月2日 (土) ~ 3日 (日) テーマ: 企画立案・運営、復興地域づくりをデザインする

講師: 能島 裕介 氏  
特定 NPO 法人復興子どもたちを支えるハチタ基金 代表理事  
阪神・淡路大震災を契機に学生による全国初の NPO 法人を設立。被災者を NPO とつなぐ支援の企画プロジェクト (つなぐ) を中心に、社会起業家のビジネスプランコンペ edge 常務理事、西宮市市民交流センターセンター長、関西学院大学非常勤講師 (公共政策・社会政策・コミュニティビジネス)、一般社団法人ヤンクス・フォー・チルドレンスーパーバイザー等も務める。



講師: 上田 英司 氏  
NPO 法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター) 事務局長  
日本ボランティアコーディネーター協会 運営委員  
大学生のときに、国際ワークキャンプに参加し、市民活動の持つ可能性に魅せられ、九州工業大学を中退し、2002 年に NICE に専任職員となる。現在、NICE 事務局長、前市市民活動支援センター運営委員、杉並総合市民協会の代表、日本ボランティアコーディネーター協会運営委員、日本エコツーリズムセンター理事。



特定非営利活動法人 宇南倶楽部 とは?

2007 年から「持続可能な地域づくり」をテーマに、昭和村・奥会津地域を拠点に、国内外の若者による地域の復興ワークキャンプ、自然と共生し想って知識や技術の継承、古民家を活用したゲストハウスやアトリエカフェ等の農村コミュニティビジネス、地域を元気にする人々を育てる「奥会津大学」等、持続可能な地域づくり・人づくりに取り組んでいます。

お問い合わせ・お申し込み

特定非営利活動法人 宇南倶楽部 (ちよまくらぶ)  
担当: 尾崎、小坂  
〒968-0103 福島県大沼郡昭和村大字下津川字中島 652 番地  
電話/FAX: 0241-57-2240 メール: [info@chomacub.jp](mailto:info@chomacub.jp)  
ホームページ: <http://www.chomacub.jp/>

実施団体

主催: 特定非営利活動法人 宇南倶楽部 (ちよまくらぶ)  
後援: 福島県、昭和村  
協賛: 平成 24 年度公益財団法人つくし基金

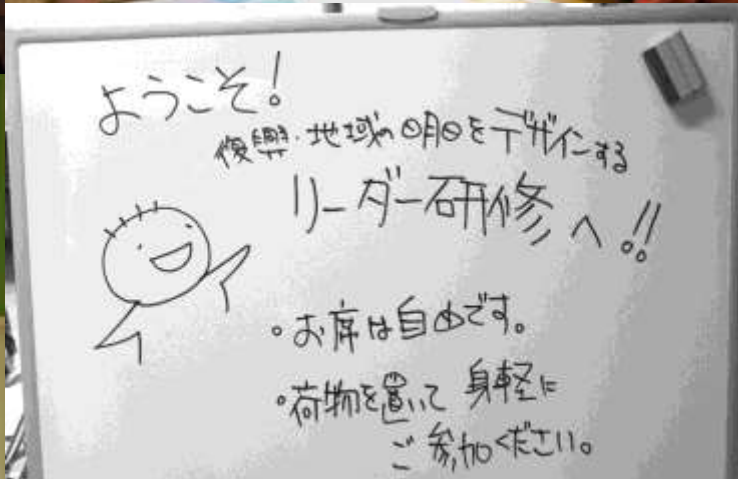
同時開催中

昭和村ワークキャンプ

(詳細については宇南倶楽部HPをご覧ください)

【開催期間】 平成 24 年 6 月 26 日 (火) ~ 7 月 24 日 (火)  
平成 24 年 8 月 20 日 (月) ~ 9 月 17 日 (月)  
平成 24 年 9 月 24 日 (月) ~ 10 月 21 日 (日)  
※ 1 泊 2 日の参加費も可 (別途お問い合わせください)  
【場所】 福島県昭和村  
【内容】 村内の高齢者世帯や高齢ニーズに基づいた農作業や地元のお祭り手伝い等を行う。







# 自然と共生してきた本物の生き方・働き方の学ぶ ムラキャンパス事業

NPOChomaClub  
presents

## MURA CAMPUS PROJECT

明日をかえるちから  
Power to Change Tomorrow

福島県昭和村を舞台に明日をかえるちからを  
いっしょに考えるプロジェクト

From Showa mura Fukushima to our future





# 地域づくりの現場で、大切にしていること

応援する・されるの関係を越えて、  
未来を共に創る仲間としての「共感」を生み出す

- お互いの文化・個性の違いを尊重する気持ち、学びの姿勢
- 対話方法の違いをお互いに理解すべし ●共に悩み、歩む
- 先入観にとらわれない ●個性や得意な事を発揮できる機会づくり
- お互いにわかりやすい言葉づかい ●対話の展開をあせらない
- 地域や若者の主体性・役割・当事者感覚を丁寧に引き出す
- 顔が見える関係性をつくる ●安心して存在できる場の雰囲気づくり
- 表舞台ではない、地域・参加者の自然な交流の時を演出
- 共通の実体験の積み重ね ●遊び・笑いを大切に
- 想いを引き出し、想いを重ねていく ●場をつくりすぎない
- 長期的なビジョンや夢を常に共有し、活動同士の流れをつくる
- 共感から生まれた成果の見える化 ●目的・背景を丁寧に共有する
- 関わる人々それぞれの特徴を把握し、有機的につなげる



『地域を元気にしたい』

をつなげたい、

カタチにしたい。

奥会津昭和村発

ワークキャンプ指南書

～地域づくりリーダーハンドブック～



NPO法人会津復興部  
（会津昭和村）

ご清聴頂きありがとうございました